

**2023年度 TCFDコンソーシアム
TCFD開示・活用に関するアンケート調査
(会員アンケート集計結果)
〔公開版〕**

2023年9月29日

TCFDコンソーシアム



設問一覧 (1/2)

【共通設問】

設問	金融機関	非金融機関
設問3	貴社の所属する市場区分についてお聞かせください。(1つ選択)	
設問4	TCFDコンソーシアムに参加した動機をお聞かせください。(複数選択可)	
設問5	貴社におけるTCFD提言への対応状況についてお聞かせください。初めてTCFD提言に対応する開示を実施した年をご回答ください。未開示の場合は、開示予定年度をご回答ください。(1つ選択)	
設問6	設問5.でa.からe.と回答された方(既に開示済の方)にお聞きします。貴社のTCFD提言に基づく開示を行う媒体として、何を活用していますか。(複数選択可)	
設問7	回設問5.でa.からe.と回答された方(既に開示済の方)にお聞きします。開示情報について外部保証を実施していますか。	
設問8	貴社がTCFD開示の更なる充実を図る上で、または今後開示していくにあたり、どのような点が課題でしょうか。(複数選択可)	
設問9	設問8.でa.(開示を行う体制・人員の不足)と回答された方にお聞きします。具体的にどのような人員(例:役員、管理職、担当者、サステナビリティに関する専門人材等)が不足しているかご回答ください。(自由記載)	
設問10	TCFDが推奨する11の項目についてお伺いします。自社が対外的に公表するレポート(有価証券報告書、統合報告書、環境報告書、ホームページ等)において、現時点で開示済である項目をご回答ください。	
設問11	移行計画についてお伺いします。自社が対外的に公表するレポート(有価証券報告書、統合報告書、環境報告書、ホームページ等)において、現時点で移行計画を開示していますか。	
設問12	TCFDにおいて開示が推奨されている7つの指標についてお伺いします。自社が対外的に公表するレポート(有価証券報告書、統合報告書、環境報告書、ホームページ等)において、現時点で開示済である指標をご回答ください。	
設問13	シナリオ分析を実施している方にお聞きします。貴社のシナリオ分析の開示状況についてご回答ください。	
設問14	TCFDへの賛同や情報開示を行ったことで、どのようなメリットがありましたか。または、どのようなメリットを期待されますか。貴社の状況に近いものをご回答ください。(複数選択可)	
設問15	TCFDフレームワークに基づき、詳細に開示項目を規定したIFRSサステナビリティ開示基準に関して、全般的要求事項(S1)と気候関連開示(S2)が公表されましたが、貴社はどのように対応しているかご回答ください。(1つ選択)	

※赤枠で囲まれた設問の分析結果は会員版限定のみ公開

設問一覧 (2/2)

【個別設問】

設問	金融機関	非金融機関
設問16	投融資先企業の開示情報を入手する媒体として何を活用していますか。(複数選択可)	投資家を含む金融機関等との対話(エンゲージメント)の中で、気候変動に関する情報開示が話題となる頻度をご回答ください。(1つ選択)
設問17	投融資先企業のTCFDに基づく開示情報の利活用状況をご回答ください。(複数選択可)	設問16.でa.、b.、c.と回答された方にお聞きます。金融機関等との対話(エンゲージメント)において、どのような質問を受けましたか。(複数選択可)
設問18	貴社が企業に対して行っている気候変動に関するエンゲージメントについてお聞きます。エンゲージメントにあたってどのような点に注目していますか。(複数選択可)	脱炭素へ向けた転換を推進する企業を支援するトランジションファイナンスを巡る動きが活発化しています。トランジションファイナンスに対する貴社のご認識についてお聞かせ下さい。(1つ選択)
設問19	企業に対する気候変動に関するエンゲージメントの実施にあたり、問題点として感じていることをご回答ください。(複数選択可)	TCFDコンソーシアムにおいて取り組むべきと考えられる活動、要望をお聞かせください。(複数選択可) * 任意回答
設問20	自社で保有する投融資ポートフォリオのGHG排出量(金融排出量)を分析し、目標値を設定していますか。(1つ選択)	設問19.でa(ガイダンス等の刊行)を選んだ方にお聞きます。TCFDコンソーシアムではこれまで「気候関連財務情報開示に関するガイダンス3.0」や「グリーン投資の促進に向けた気候関連情報活用ガイダンス2.0」等のガイダンスを刊行しています。今後、新たにガイダンスを刊行して欲しいトピックをお聞かせください。(自由記載) * 任意回答
設問21	設問20.でaと回答された方(目標値を設定している方)をご回答ください。目標値の設定年についてご回答ください。(1つ選択)	設問19.でb(教育啓発)を選んだ方にお聞きます。具体的にどのような教育啓発へのニーズがありますか。(複数選択可) * 任意回答
設問22	設問20.でaと回答された方(目標値を設定している方)をご回答ください。貴社の目標をご回答ください。(自由記載)	設問21.でb.、c.を選んだ方にお聞きます。想定するセミナー/教育プログラムの回数や料金について具体的にお聞かせください。* 任意回答
設問23	脱炭素へ向けた転換を推進する企業を支援するトランジションファイナンスを巡る動きが活発化しています。トランジションファイナンスに対する要望等があればお聞かせください。(自由記載) * 任意回答	設問19.でc(ポジションペーパーや意見書)を選んだ方にお聞きます。具体的に何を対象としたポジションペーパーや意見書を作成すべきかお聞かせください。(自由記載) * 任意回答
設問24	TCFDコンソーシアムにおいて取り組むべきと考えられる活動、要望をお聞かせください。(複数選択可) * 任意回答	
設問25	設問24.でa(ガイダンス等の刊行)を選んだ方にお聞きます。TCFDコンソーシアムではこれまで「気候関連財務情報開示に関するガイダンス3.0」や「グリーン投資の促進に向けた気候関連情報活用ガイダンス2.0」等のガイダンスを刊行しています。今後、新たにガイダンスを刊行して欲しいトピックをお聞かせください。(自由記載) * 任意回答	
設問26	設問24.でb(教育啓発)を選んだ方にお聞きます。具体的にどのような教育啓発へのニーズがありますか。(複数選択可) * 任意回答	
設問27	設問26.でb.、c.を選んだ方にお聞きます。想定するセミナー/教育プログラムの回数や料金について具体的にお聞かせください。* 任意回答	
設問28	設問24.でc(ポジションペーパーや意見書)を選んだ方にお聞きます。具体的に何を対象としたポジションペーパーや意見書を作成すべきかお聞かせください。(自由記載) * 任意回答	

※赤枠で囲まれた設問の分析結果は会員版限定のみ公開

アンケート回収状況

- TCFDコンソーシアム会員総数**802機関**のうち、**421機関**がアンケートに回答（回収率は**52.5%**。アンケート実施期間：**2023年7月20日～8月21日**）。
 - ✓ 金融機関の会員**179機関**のうち、**100機関**がアンケートに回答（回収率は**55.9%**）。
 - ✓ 非金融機関の会員**623機関**のうち、**321機関**がアンケートに回答（回収率は**51.5%**）。
- なお、前回（2022年8-9月実施）アンケートでは**386機関（56.7%）**が回答済。

アンケート回収状況

	総数	金融機関	非金融機関
TCFDコンソーシアム会員数 (2023年7月中旬時点)	802機関	179機関	623機関
アンケート回答数	421機関	100機関	321機関
回収率	52.5%	55.9%	51.5%

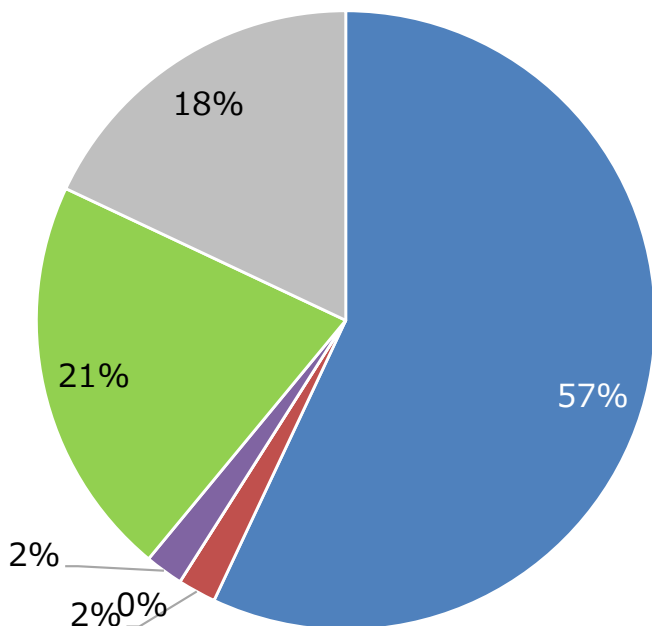
2023年度ステータスレポート（アンケート集計結果）の概要

- 開示媒体に関して、**自社ホームページや統合報告書**が最も多く活用されているが、昨年度と比較して**有価証券報告書**での開示が大きく増加。（設問6）
- 企業がTCFD開示を行う上での課題は、**気候シナリオ等の専門領域**で十分な分析ができていないこと、及び**体制不備、人材不足**が課題。（設問8）
- 昨年度調査と比較して、TCFD提言の**多くの項目で開示比率が増加**しているが、昨年同様、**シナリオ分析を含む戦略cがやや低い**。（設問10）
- **金融機関で3割、非金融機関で5割弱が移行計画を開示**。（設問11）
- 産業横断的指標としてTCFDが提唱した7つの指標について、**スコープ1、2 排出量の把握・開示の対応が最も進んでおり、9割が開示済み**。スコープ3排出量の開示も昨年度調査と比較して進展しており、**約6割が開示済み**。一方、資本配分、内部炭素価格（ICP）、報酬は**新しい項目**であり、対応済み企業は現状では**開示比率は低い**。（設問12）
- シナリオ分析について、昨年度調査では金融機関で5割、非金融機関で2割の開示に留まっていた**定量分析**について、**本年度調査では金融機関で7割、非金融機関で4割の開示比率**となっており、**開示状況が進展**。（設問13）
- TCFD情報開示のメリットは、「**自社の気候関連リスクと機会についての社内の理解深耕**」に回答が集まった。（設問14）
- **トランジションファイナンス**について半分弱の非金融機関が**関心あり**。（非金融 設問18）**金融機関からは「詳細な基準等の明確化」や「国際的な認知度向上」を求める声**。（金融 設問23）
- TCFDコンソーシアムへの参加動機は、**金融・非金融ともに情報収集や動向把握**のためとの回答が多数。（設問4）

設問 3 (共通)

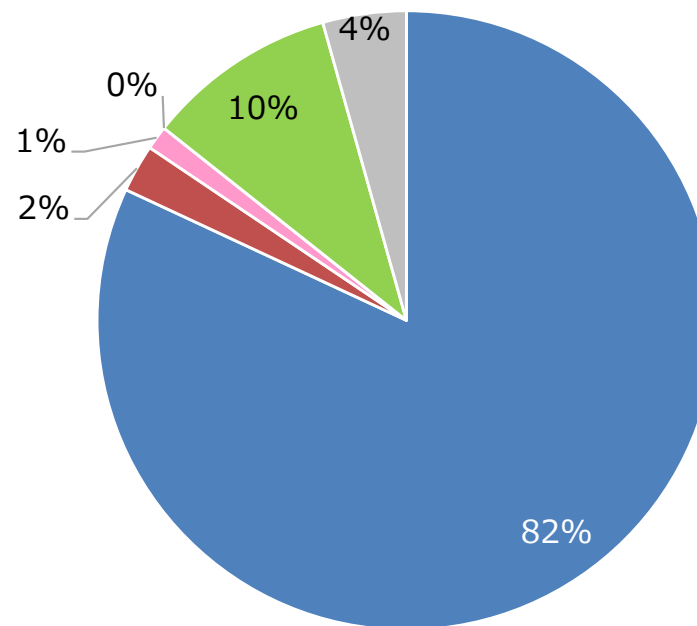
- 貴社の所属する市場区分につき、お聞かせください。(一つ選択)

金融機関 (回答数 : 100機関)



- a. プライム市場
- b. スタンダード市場
- c. グロース市場
- d. 海外市場
- e. 未上場
- f. その他

非金融機関 (回答数 : 321機関)



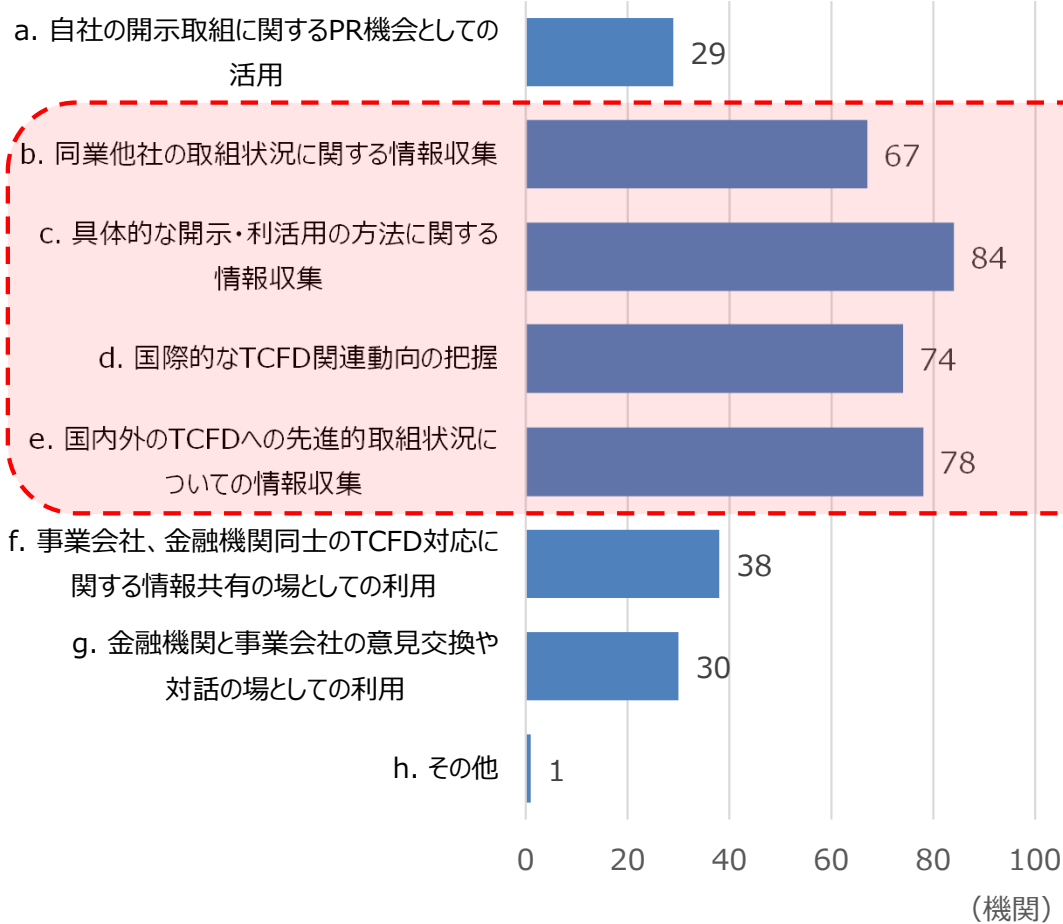
- a. プライム市場
- b. スタンダード市場
- c. グロース市場
- d. 海外市場
- e. 未上場
- f. その他

- 回答者の所属市場は非金融機関では8割がプライム市場上場企業。これに対して金融機関では未上場の比率が高いが、これはアセットマネジメント会社などで子会社形態をとる機関が多く含まれている。
- スタンダード市場、グロース市場の割合は、金融機関・非金融機関ともに2%程度。

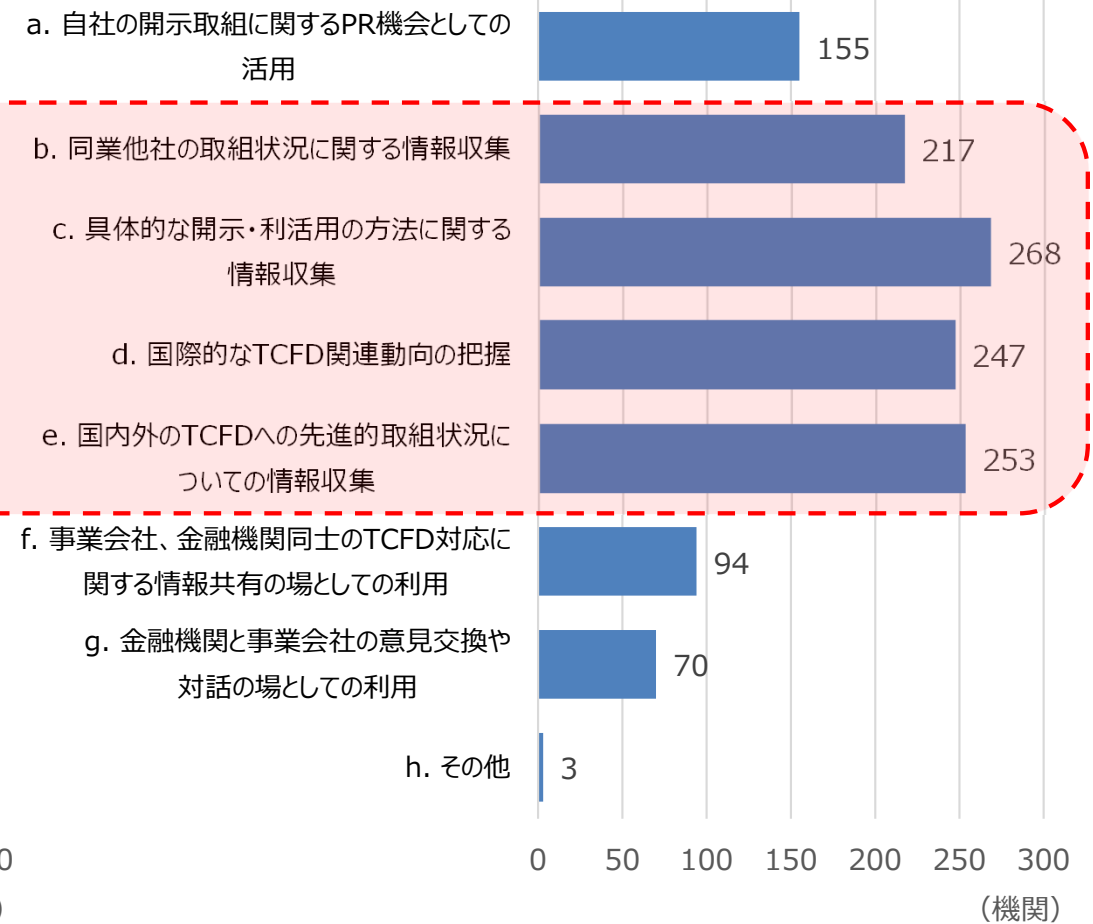
設問 4 (共通)

- TCFDコンソーシアムに参加した動機をお聞かせください。(複数選択可)

金融機関 (回答数 : 100機関)



非金融機関 (回答数 : 321機関)

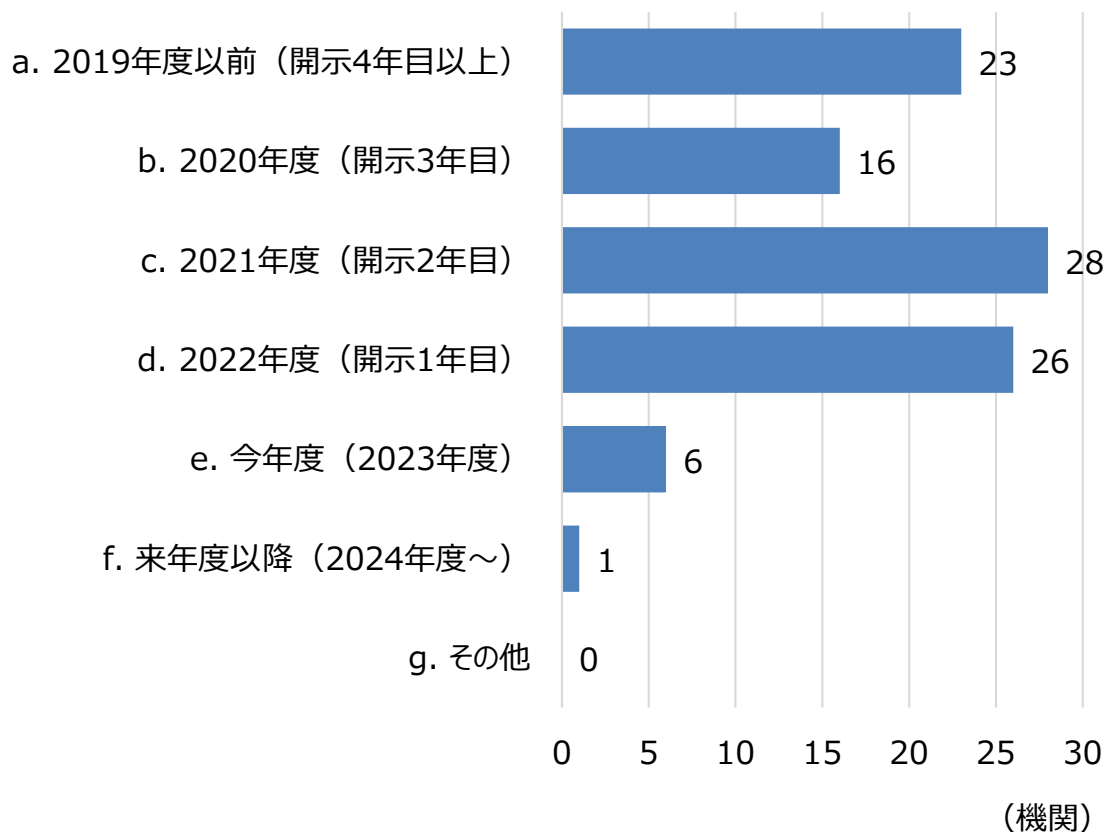


- 金融・非金融機関ともに選択肢b~e (情報収集、動向把握) が多い。
- 非金融機関では選択肢a (開示のPR) の比率が比較的高い。

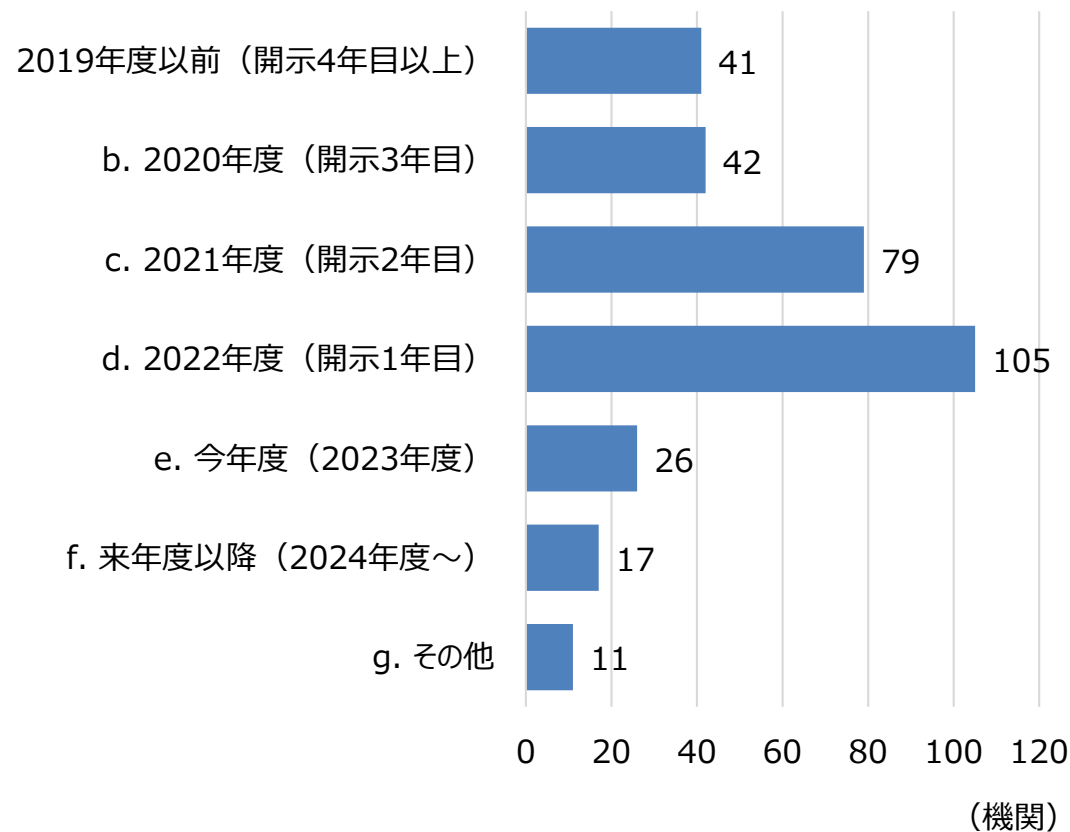
設問 5 (共通)

- 貴社におけるTCFD提言への対応状況についてお聞かせください。初めてTCFD提言に対応する開示を実施した年をご回答ください。未開示の場合は、開示予定年度をご回答ください。(1つ選択)

金融機関 (回答数 : 100機関)



非金融機関 (回答数 : 321機関)

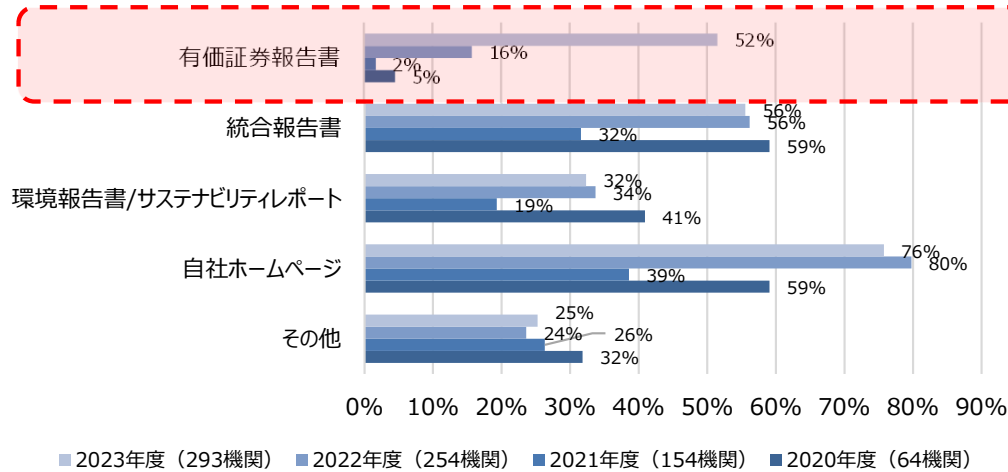


- 非金融機関では、コーポレートガバナンス・コード対応を契機に、2021年から開示が急増していることが分かる。
- 金融機関では、まず、銀行、証券会社、生損保、アセット・マネジメント会社等の大手機関が早期に開示を実施し、最近では地銀等がコーポレートガバナンス・コード対応で開示を開始している。

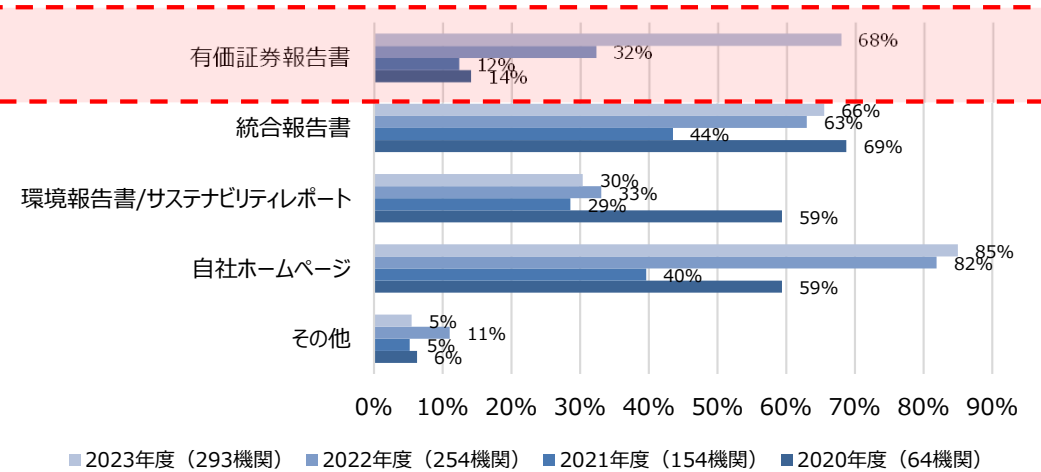
設問6 (共通)

- 設問5.でa.からe.と回答された方（既に開示済の方）にお聞きします。貴社のTCFD提言に基づく開示を行う媒体として、何を活用していますか。（複数選択可）

金融機関



非金融機関



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
有価証券報告書	1	1	14	51
統合報告書	13	18	50	55
環境報告書/サステナビリティレポート	9	11	30	32
自社ホームページ	13	22	71	75
その他	7	15	21	25
回答数	22	57	89	99

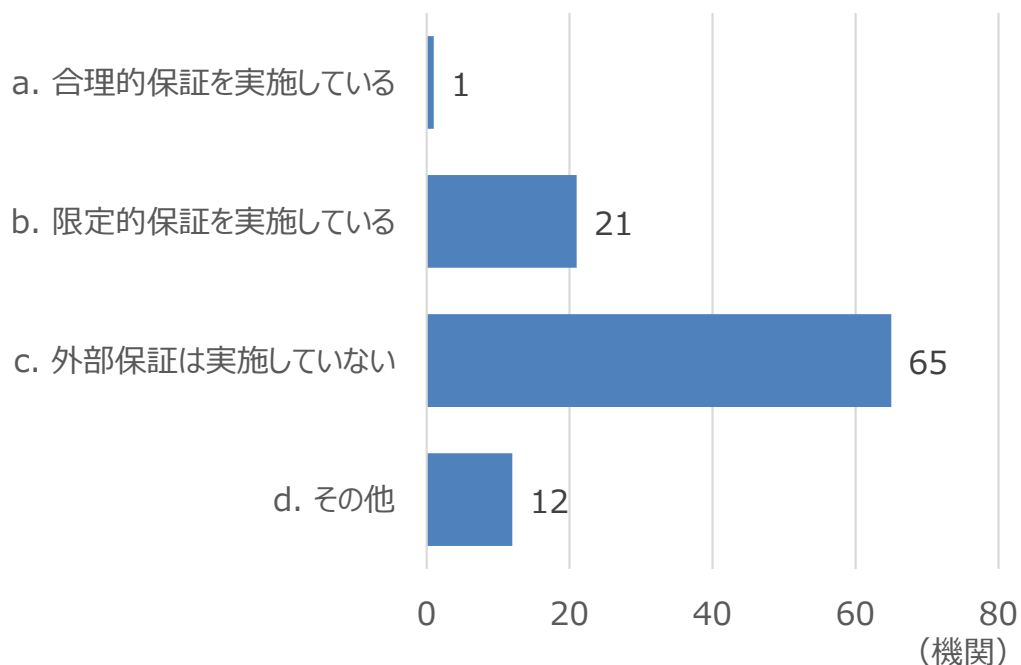
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
有価証券報告書	9	19	82	199
統合報告書	44	67	160	192
環境報告書/サステナビリティレポート	38	44	84	89
自社ホームページ	38	61	208	249
その他	4	8	28	16
回答数	64	154	254	293

- 時系列分析では金融機関・非金融機関共に、有価証券報告書の活用が急増していることが示された。内閣府令の改正に伴い、他の開示方法に加えて有価証券報告での開示を進めている企業が多いと推察される。
- ただし頻度では、昨年度調査と同様に自社ホームページで開示している企業が最も多い。

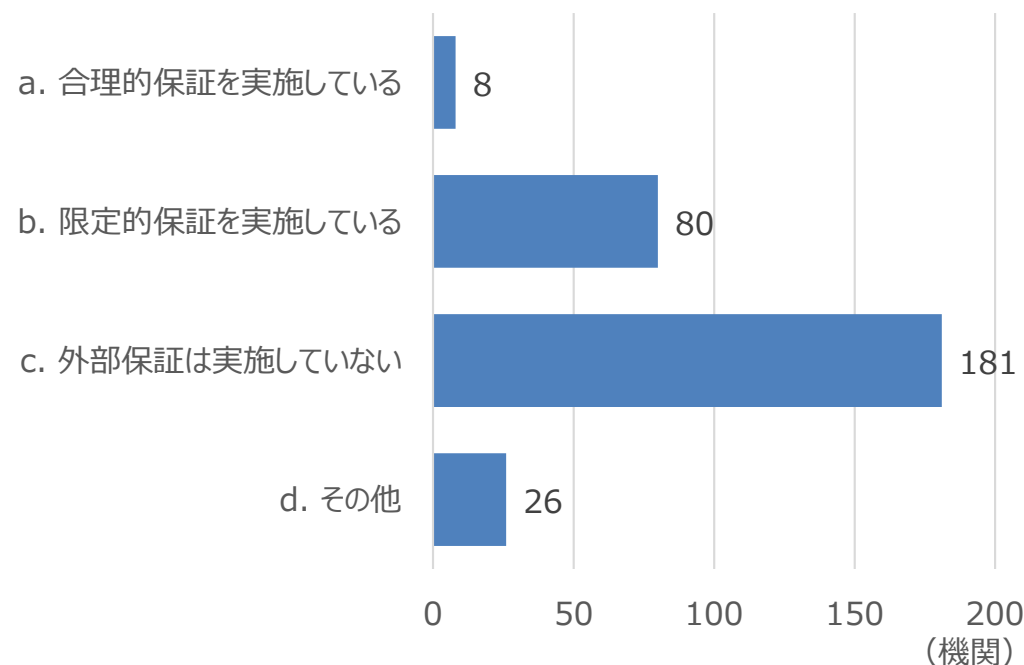
設問 7 (共通)

- 設問5.でa.からe.と回答された方（既に開示済の方）にお聞きします。開示情報について外部保証を実施していますか。

金融機関（回答数：99機関）



非金融機関（回答数：295機関）

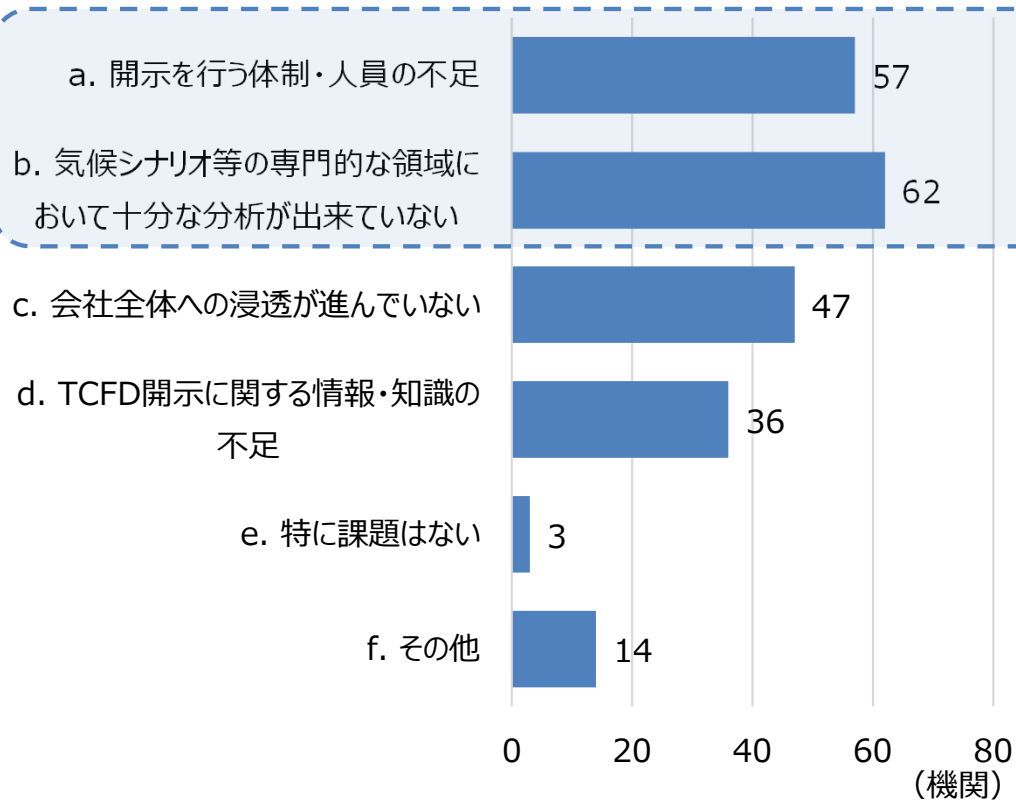


- 外部保証を実施していないとの回答が最も多かった一方、金融機関の2割、非金融機関の3割程度は外部保証（多くは限定的保証）を実施している。

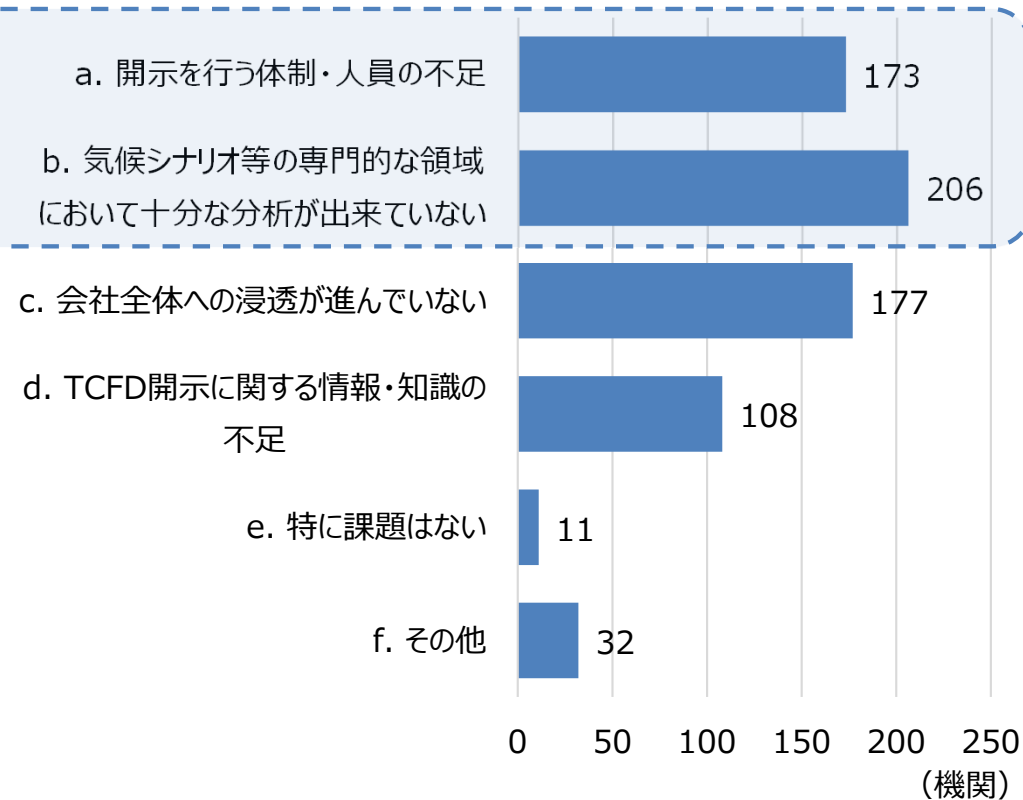
設問 8 (共通)

- 貴社がTCFD開示の更なる充実を図る上で、または今後開示していくにあたり、どのような点が課題でしょうか。
(複数選択可)

金融機関 (回答数 : 100機関)



非金融機関 (回答数 : 321機関)



- TCFD開示の更なる充実を図る上で、**開示を行う体制・人材の不足、気候シナリオ等の専門的な領域において十分な分析ができていない**、という意見が金融機関、非金融機関共に多数を占めた。

設問10、12（共通）

- TCFDが推奨する開示4項目を細分化した11項目の定義については、以下の通り。
- 2021年10月改定で開示推奨された産業横断7つの指標も、以下の通り。

TCFD11項目とは

TCFD4項目	ガバナンス	戦略	リスク管理	指標と目標
TCFD4項目の目的	気候関連のリスクと機会に関する組織のガバナンスを開示する。	気候関連のリスクと機会が組織の事業、戦略、財務計画に及ぼす実際の影響と潜在的な影響について、その情報が重要（マテリアル）な場合は、開示する。	組織がどのように気候関連リスクを特定し、評価し、マネジメントするのかを開示する。	その情報が重要（マテリアル）な場合、気候関連のリスクと機会を評価し、マネジメントするために使用される指標と目標を開示する。
全セクター向け 11項目の定義	a) 気候関連のリスクと機会に関する取締役会の監督について記述する。	a) 組織が特定した、短期・中期・長期の気候関連のリスクと機会を記述する。	a) 気候関連リスクを特定し、評価するための組織のプロセスを記述する。	a) 組織が自らの戦略とリスク管理に即して、気候関連のリスクと機会の評価に使用する指標を開示する。
	b) 気候関連のリスクと機会の評価とマネジメントにおける経営陣の役割を記述する。	b) 気候関連のリスクと機会が組織の事業、戦略、財務計画に及ぼす影響を記述する。	b) 気候関連リスクをマネジメントするための組織のプロセスを記述する。	b) スcope 1、Scope 2、該当する場合はScope 3のGHG排出量および関連するリスクを開示する。
		c) 2°C以下のシナリオを含む異なる気候関連のシナリオを考慮して、組織戦略のレジリエンスを記述する。	c) 気候関連リスクを特定し、評価し、マネジメントするプロセスが、組織の全体的なリスクマネジメントにどのように統合されているかを記述する。	c) 気候関連のリスクと機会をマネジメントするために組織が使用する目標、およびその目標に対するパフォーマンスを記述する。

産業横断別7つの指標とは

産業横断的指標（7つの指標）

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| a) 温室効果ガス排出（Scope 1、2、3排出量） | e) 資本の配分 |
| b) 移行リスク | f) インターナル・カーボンプライス（内部炭素価格） |
| c) 物理的リスク | g) 報酬 |
| d) 機会 | |

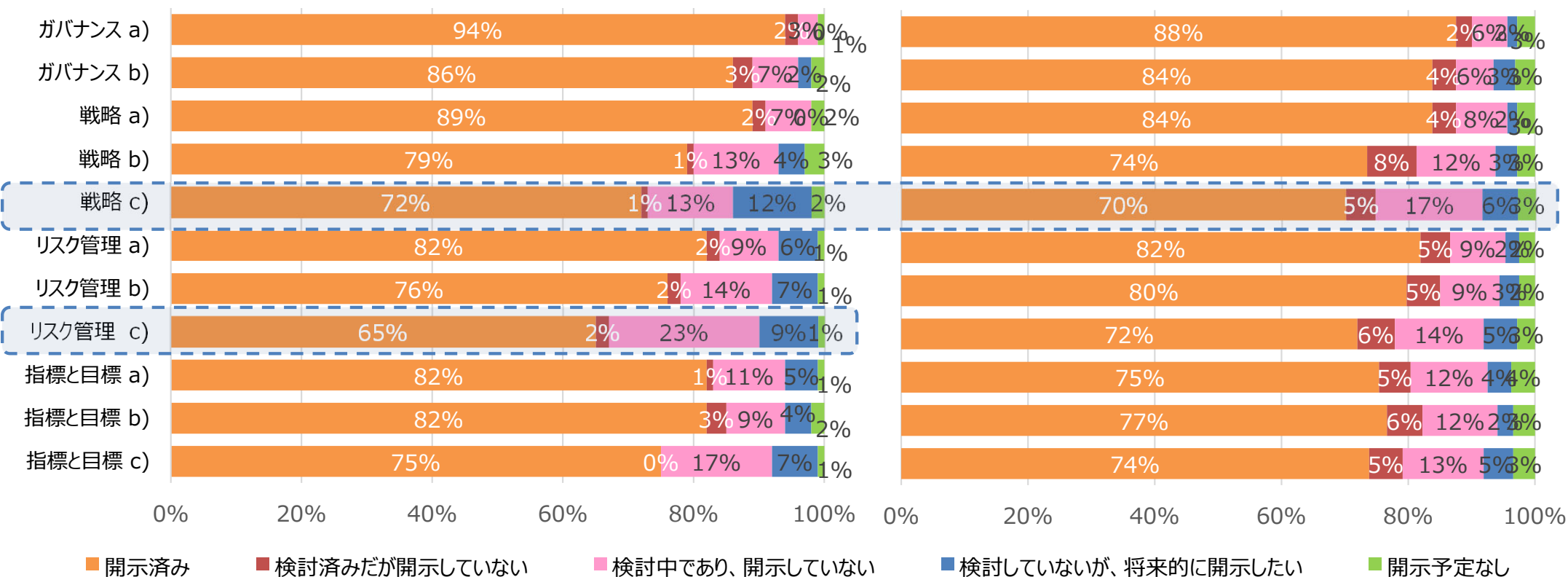
（参考資料）TCFD, 2021, 気候関連財務需要方開示タスクフォースの提言の実施（日本語訳：TCFDコンソーシアム、特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム 監訳：長村政明、TCFDコンソーシアム企画委員会）

設問10 (共通)

- TCFDが推奨する11の項目についてお伺いします。自社が対外的に公表するレポート（有価証券報告書、統合報告書、環境報告書、ホームページ等）において、現時点で開示済である項目をご回答ください。

金融機関（回答数：100機関）

非金融機関（回答数：321機関）

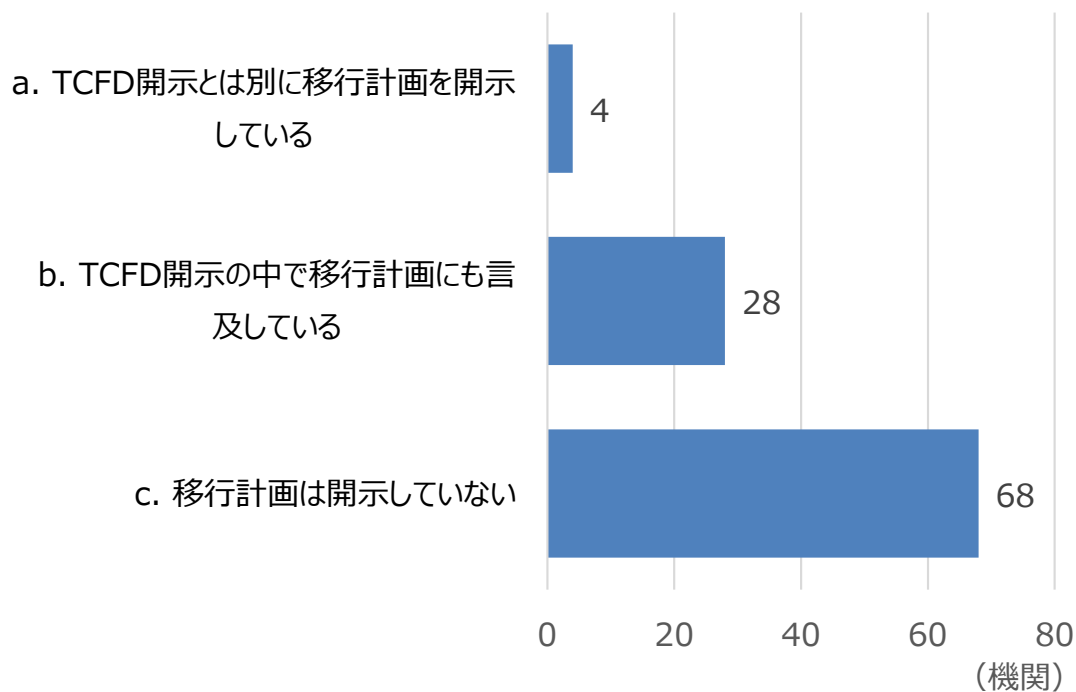


- TCFDが推奨する開示項目のうち、開示比率60%以下のものはなく、概ね70%以上が開示していた。昨年度調査と比較して、多くの項目で開示済みの割合が増加していた。
- 共通して、シナリオ分析を含むレジリエンスを扱う戦略 c が低いことが示された。
- 更に金融機関では、リスクマネジメントへの統合を要求するリスク管理cの回答率が一番低く、非金融機関においても、回答率が低位に留まることが示された。これは、既に高度な全社的なリスク管理システムが具備されている金融機関における統合の困難さを示唆するものであると考えられる。

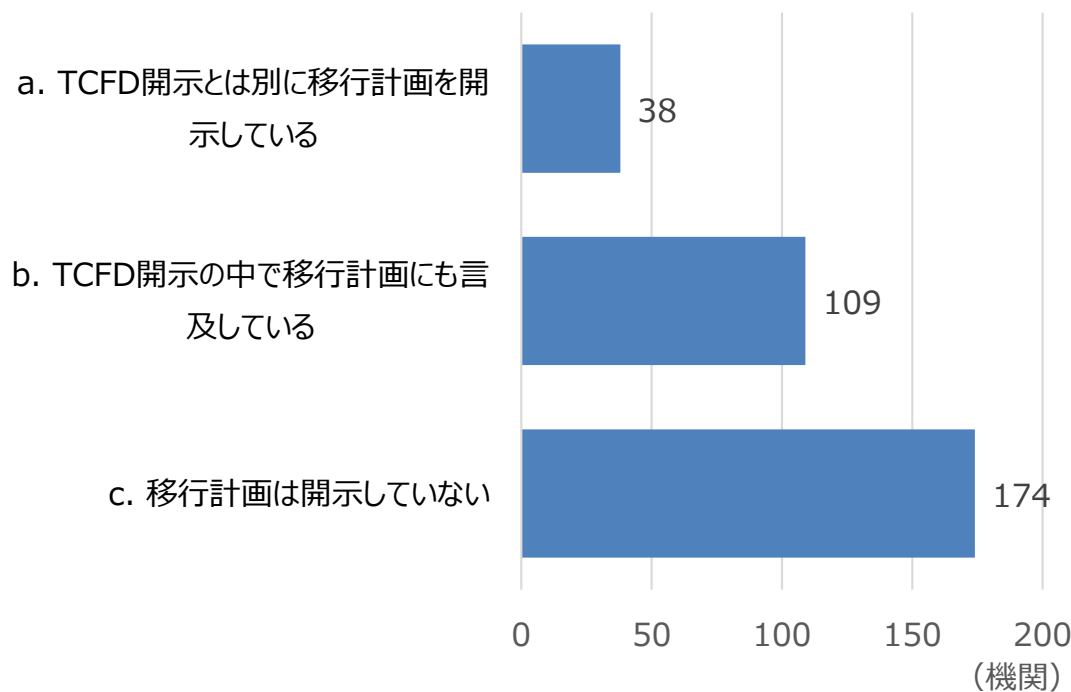
設問11 (共通)

- 移行計画についてお伺いします。自社が対外的に公表するレポート（有価証券報告書、統合報告書、環境報告書、ホームページ等）において、現時点で移行計画を開示していますか。

金融機関（回答数：100機関）



非金融機関（回答数：321機関）



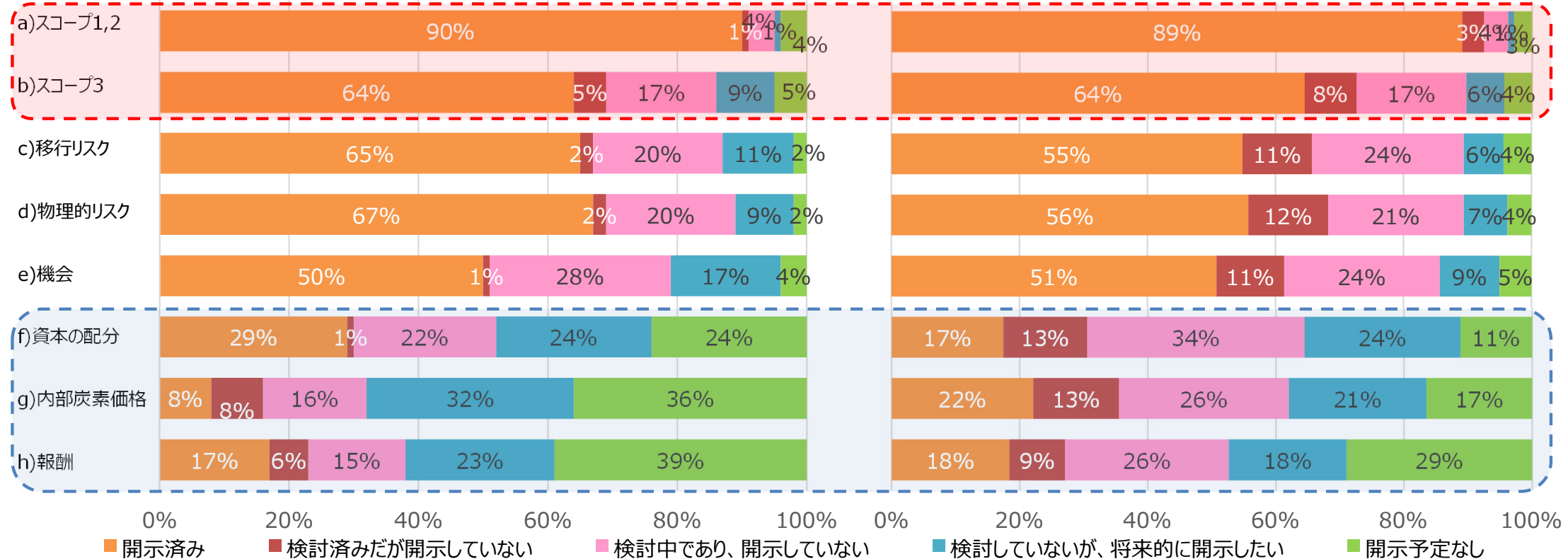
- 移行計画を開示していないとの回答が最も多かった。
- **金融機関で3割、非金融機関で5割弱が移行計画を開示**しており、開示方法としてはTCFD開示の中で移行計画に言及する形式が多かった。

設問12 (共通)

- TCFDにおいて開示が推奨されている7つの指標についてお伺いします。自社が対外的に公表するレポート（有価証券報告書、統合報告書、環境報告書、ホームページ等）において、現時点で開示済である指標をご回答ください。

金融機関（回答数：100機関）

非金融機関（回答数：321機関）

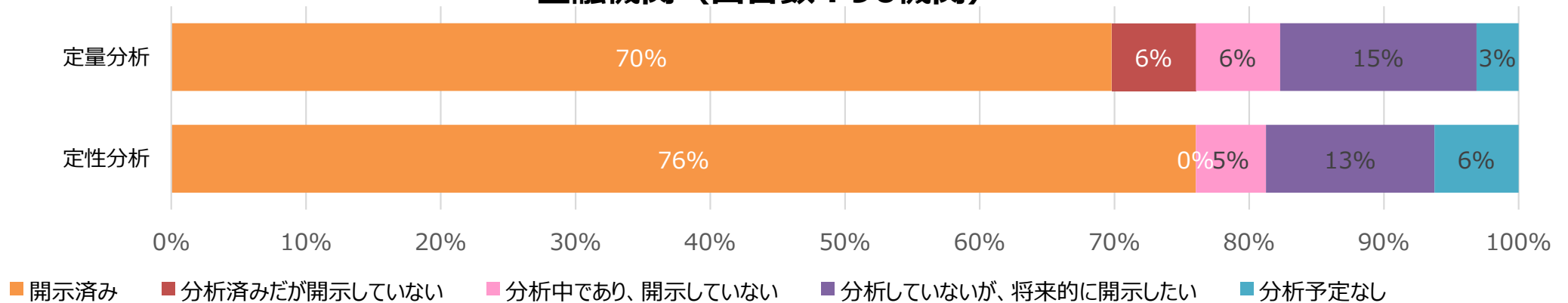


- 金融・非金融ともスコープ1、2 排出量の把握・開示の対応が最も進んでいることが示された。スコープ3排出量についても、金融・非金融ともに64%が対応していることが示された（ただしカテゴリーについては設問していない点に留意）。昨年度調査と比較して開示済みの割合が増加しており、特にスコープ3で顕著に増加した。
- 7項目のうち、資本の配分、内部的カーボンプライス、報酬についての開示は、これらが新しい項目であることもあり金融・非金融共に回答率が低い。とりわけ報酬については開示予定なしとする企業も多い。

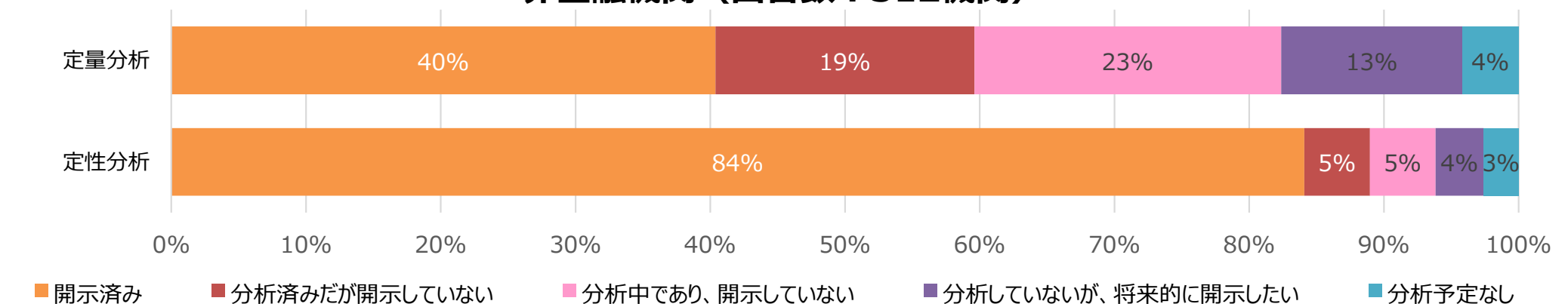
設問13 (共通)

- シナリオ分析を実施している方にお聞きします。貴社のシナリオ分析の開示状況についてご回答ください。

金融機関 (回答数 : 96機関)



非金融機関 (回答数 : 312機関)



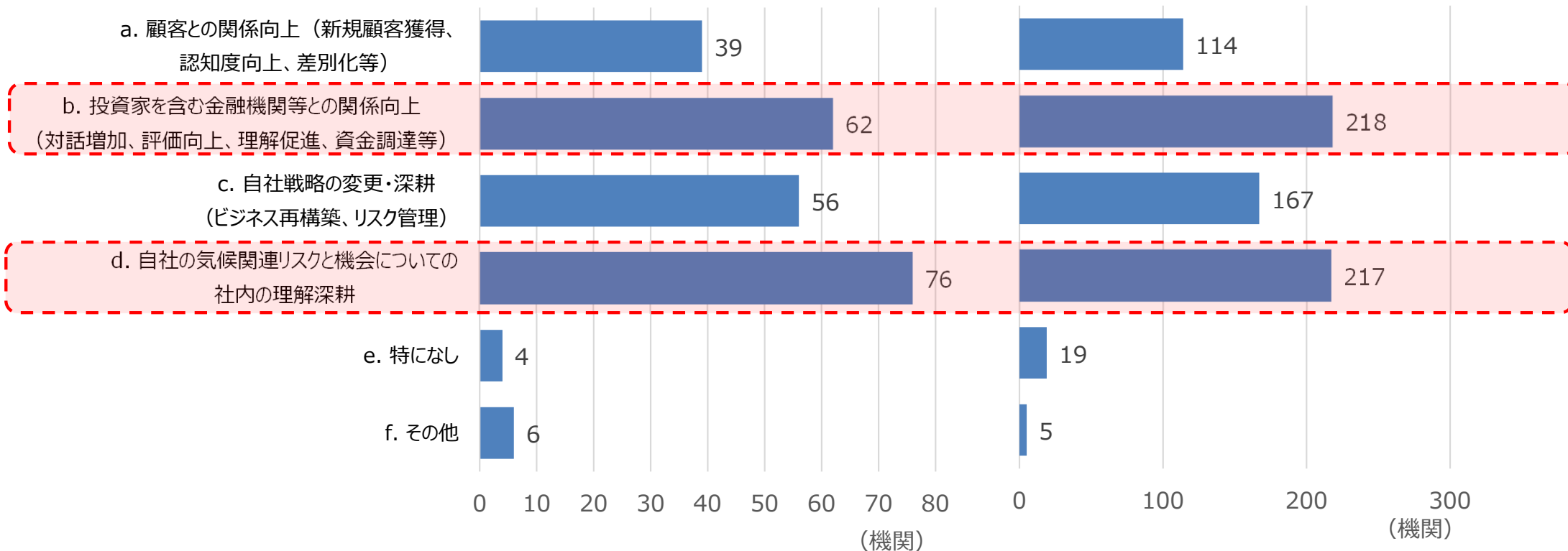
- 金融・非金融ともに約8割が定性分析を開示している。
- 昨年度調査では金融機関で5割、非金融機関で2割の開示に留まっていた**定量分析**について、本年度調査では**金融機関で7割、非金融機関で4割の企業が開示**しており、開示状況の進展がみられる。

設問14 (共通)

- TCFDへの賛同や情報開示を行ったことで、どのようなメリットがありましたか。または、どのようなメリットを期待されますか。貴社の状況に近いものをご回答ください。（複数選択可）

金融機関（回答数：100機関）

非金融機関（回答数：321機関）

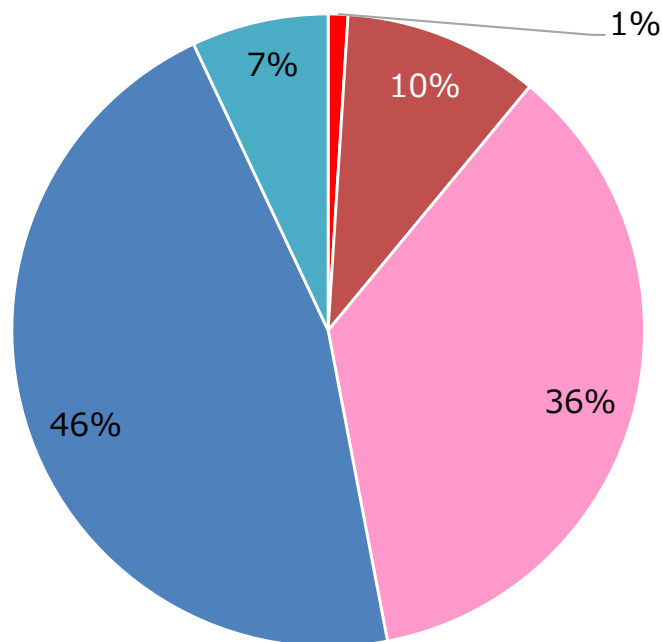


- 金融機関、非金融機関共にTCFD賛同や情報開示に関して幅広いメリットを感じているが、特に、「投資家を含む金融機関等との関係向上」や「自社の気候関連リスクと機会についての社内の理解深耕」に回答が集まり、TCFD開示が投資家とのコミュニケーションや社内の理解深耕に寄与していることが示された。

設問15 (共通)

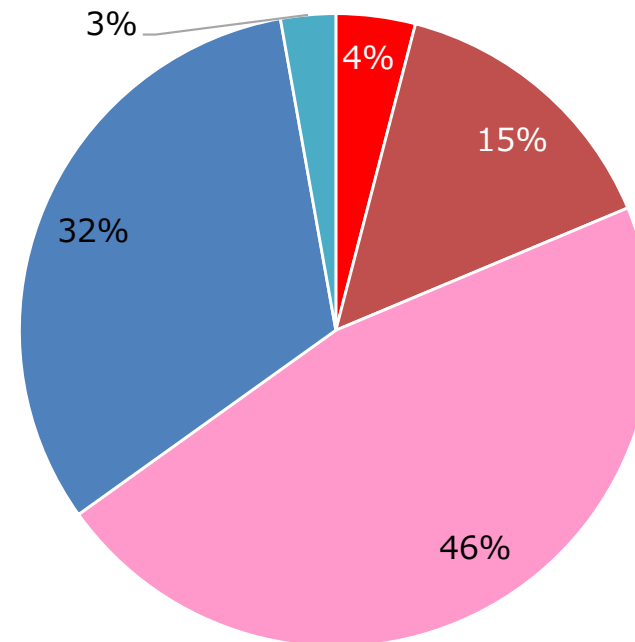
- TCFDフレームワークに基づき、詳細に開示項目を規定したIFRSサステナビリティ開示基準に関して気候関連開示全般的な要求事項 (S1) と気候関連開示 (S2) が公表されましたが、貴社はどのように対応しているかご回答ください。(1つ選択)

金融機関 (回答数 : 100機関)



- a. IFRSサステナビリティ開示基準に基づき開示済みまたは開示準備ができている
- b. IFRSサステナビリティ開示基準に基づいた開示の準備をすすめている
- c. IFRSサステナビリティ開示基準について対応を検討中
- d. 知っていたが対応は未検討
- e. 知らなかった

非金融機関 (回答数 : 321機関)



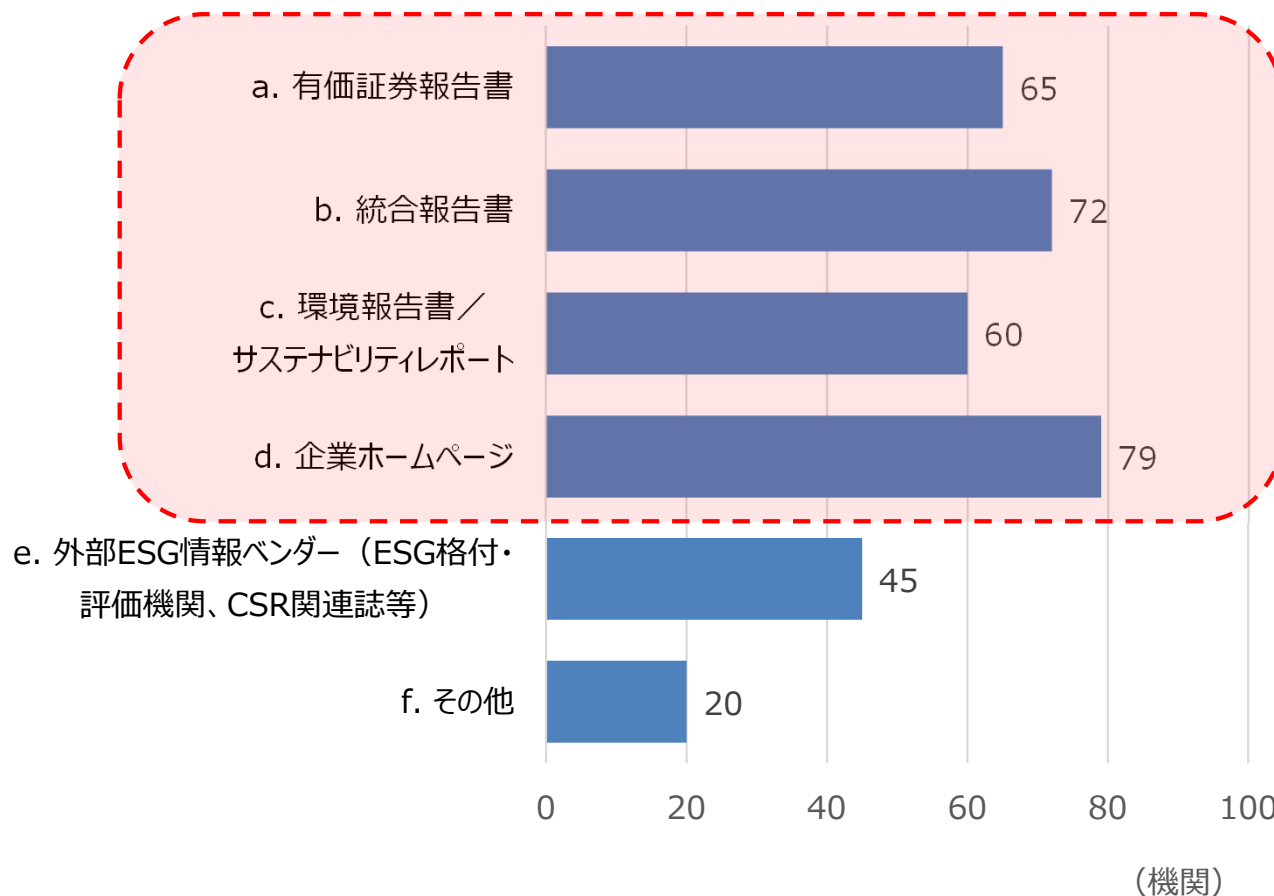
- a. IFRSサステナビリティ開示基準に基づき開示済みまたは開示準備ができている
- b. IFRSサステナビリティ開示基準に基づいた開示の準備をすすめている
- c. IFRSサステナビリティ開示基準について対応を検討中
- d. 知っていたが対応は未検討
- e. 知らなかった

- 非金融機関では約2割がIFRSサステナビリティ開示基準に基づいて開示済みまたは開示の準備を進めており、**対応を検討中の企業も含めると7割弱**となった。
- 一方、金融機関では対応未検討の企業が過半を占めている。

設問16 (金融機関)

- 投融資先企業の開示情報入手する媒体として何を活用していますか。(複数選択可)

金融機関 (回答数 : 100機関)

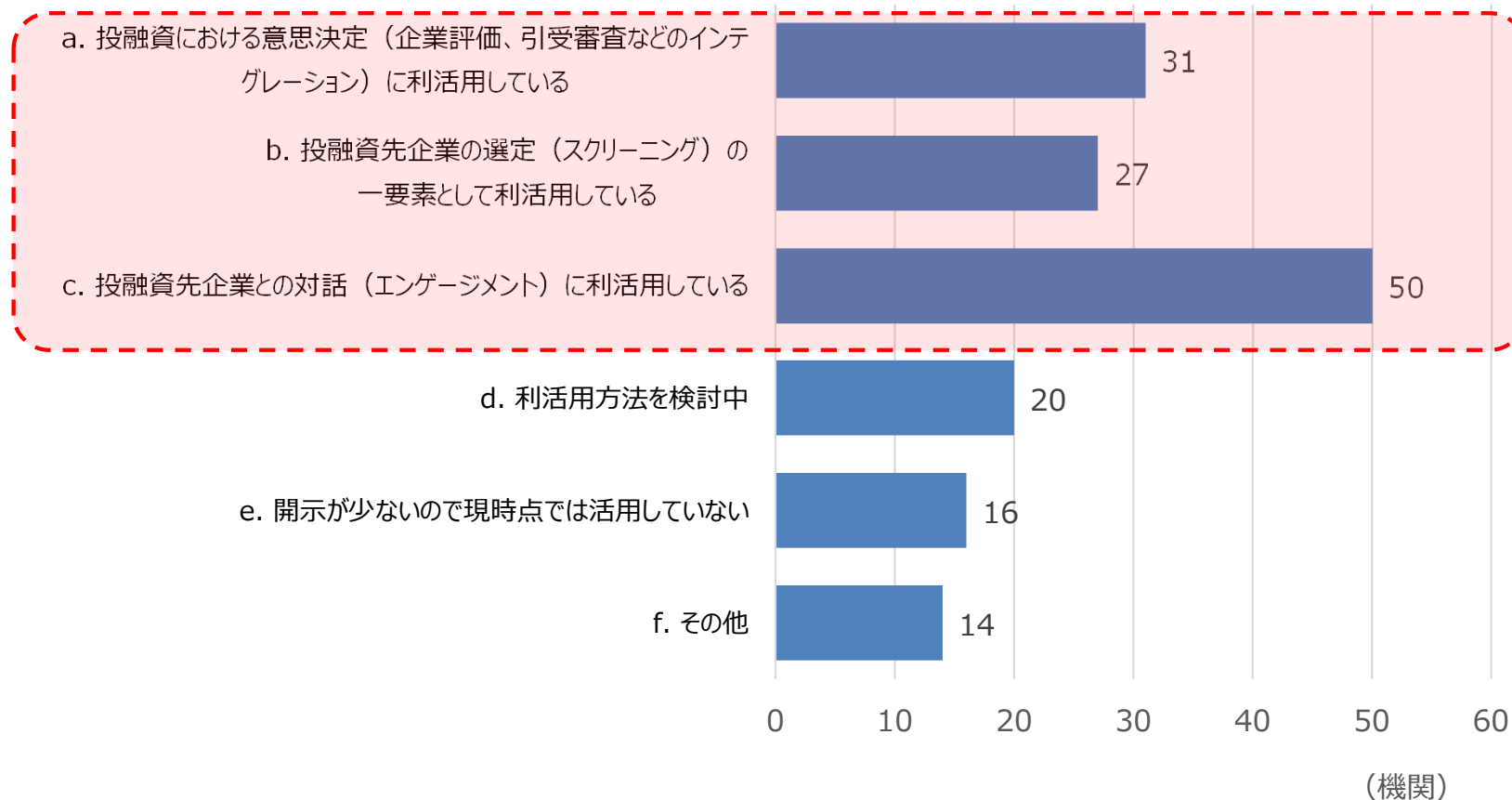


- 金融機関は、企業ホームページ、統合報告書、サステナビリティレポート、有価証券報告書といった様々な媒体の情報を活用していることが明らかになった。

設問17 (金融機関)

- 投融資先企業のTCFDに基づく開示情報の利活用状況をご回答ください。(複数選択可)

金融機関 (回答数 : 100機関)

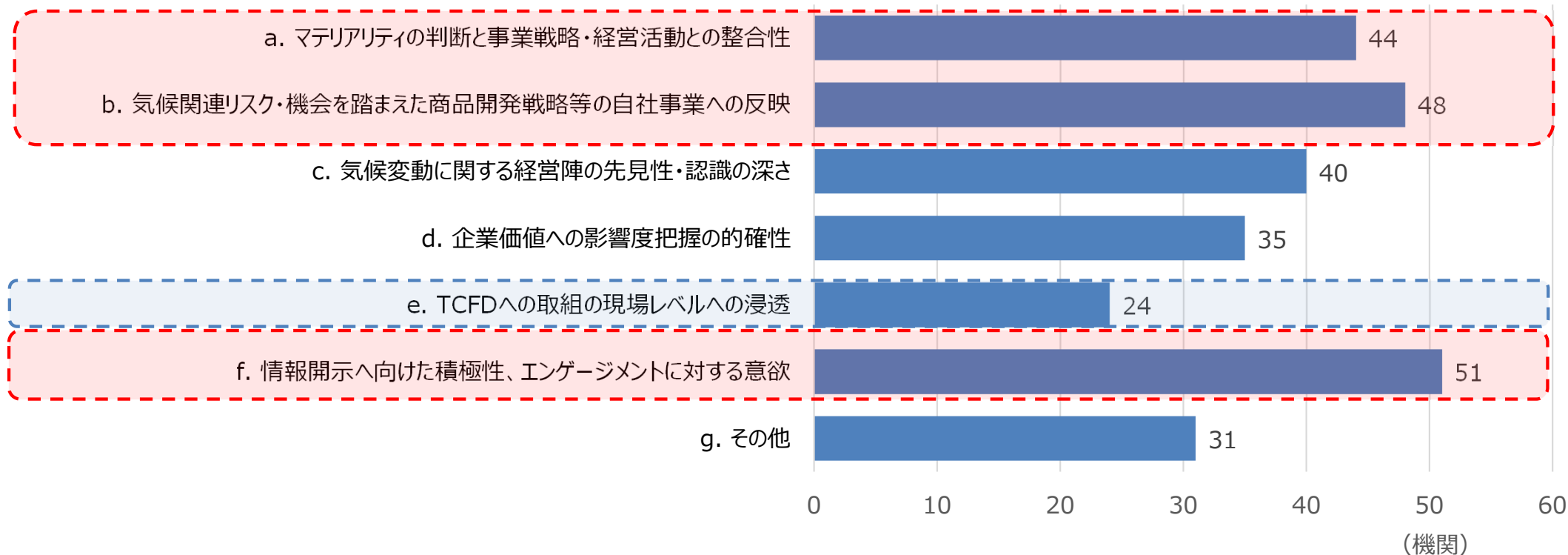


- エンゲージメントの回答割合が一番高く、次いでインテグレーション、スクリーニングとなっており、TCFD開示の情報がより**Decision Usefulな領域で活用されつつある**ことが示唆される。

設問18 (金融機関)

- 貴社が企業に対して行っている気候変動に関するエンゲージメントについてお聞きします。エンゲージメントにあたってどのような点に注目していますか。(複数選択可)

金融機関 (回答数 : 100機関)

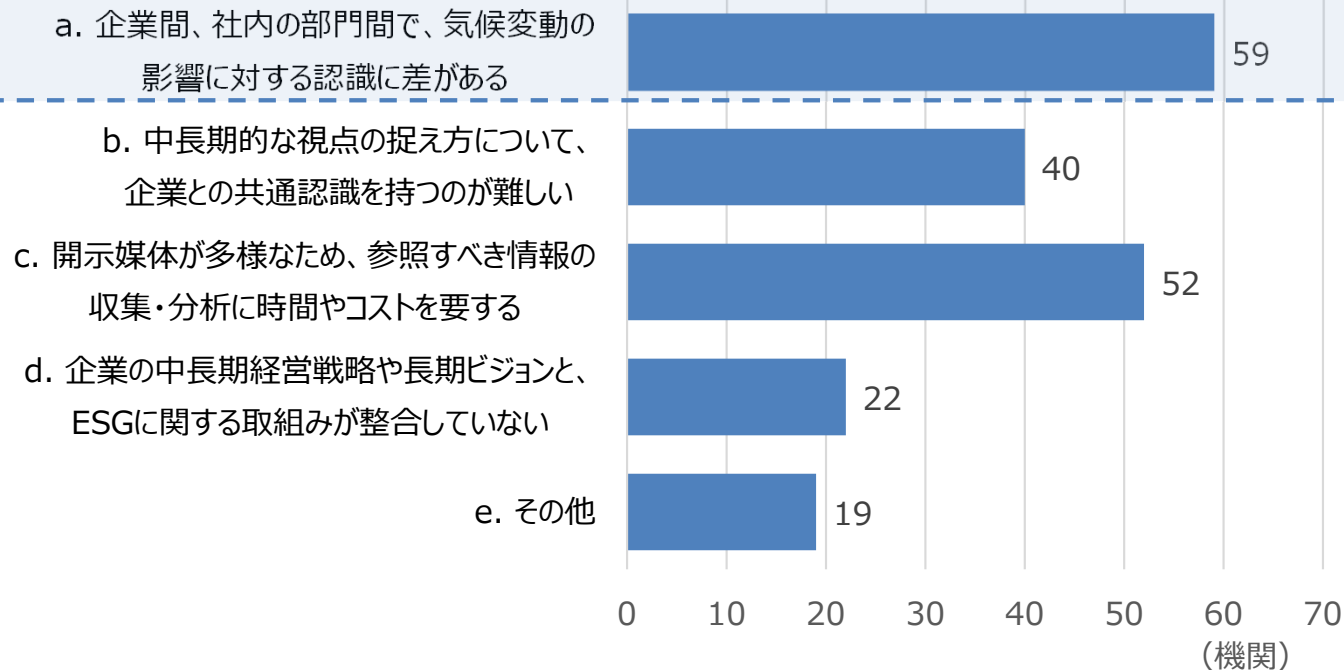


- **企業全体としての姿勢**を問う選択肢として、マテリアリティ、自社事業への反映、エンゲージメントに対する意欲 (選択肢a、b、f) 等が多い反面、**現場レベルへの浸透** (選択肢e) への関心は比較的低いことが示された。

設問19 (金融機関)

- 企業に対する気候変動に関するエンゲージメントの実施にあたり、問題点として感じていることをご回答ください。
(複数選択可)

金融機関 (回答数 : 100機関)

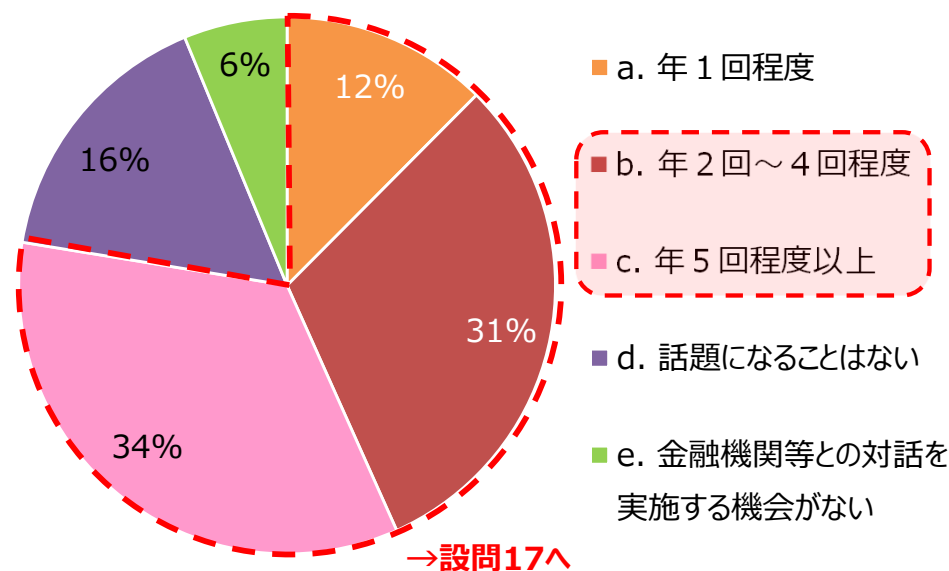


- エンゲージメント対象企業について、部署間の差が見られることが示唆された (選択肢a)。
- 金融機関側の課題として、情報の収集・分析の時間とコストが挙げられたが、これは状況変化の速度、ホームページ等の媒体の多様化が一因となっていることが示唆される (選択肢c)。
- 昨年度調査と比較すると中長期経営戦略や長期ビジョンとの不整合の指摘の回答が減少しており、開示側が事業戦略と絡めて気候変動対応を進めていることが示唆される (選択肢d)。

設問16 (非金融機関)

- 投資家を含む金融機関等との対話（エンゲージメント）の中で、気候変動に関する情報開示が話題となる頻度をご回答ください。（1つ選択）

非金融機関（回答数：321機関）

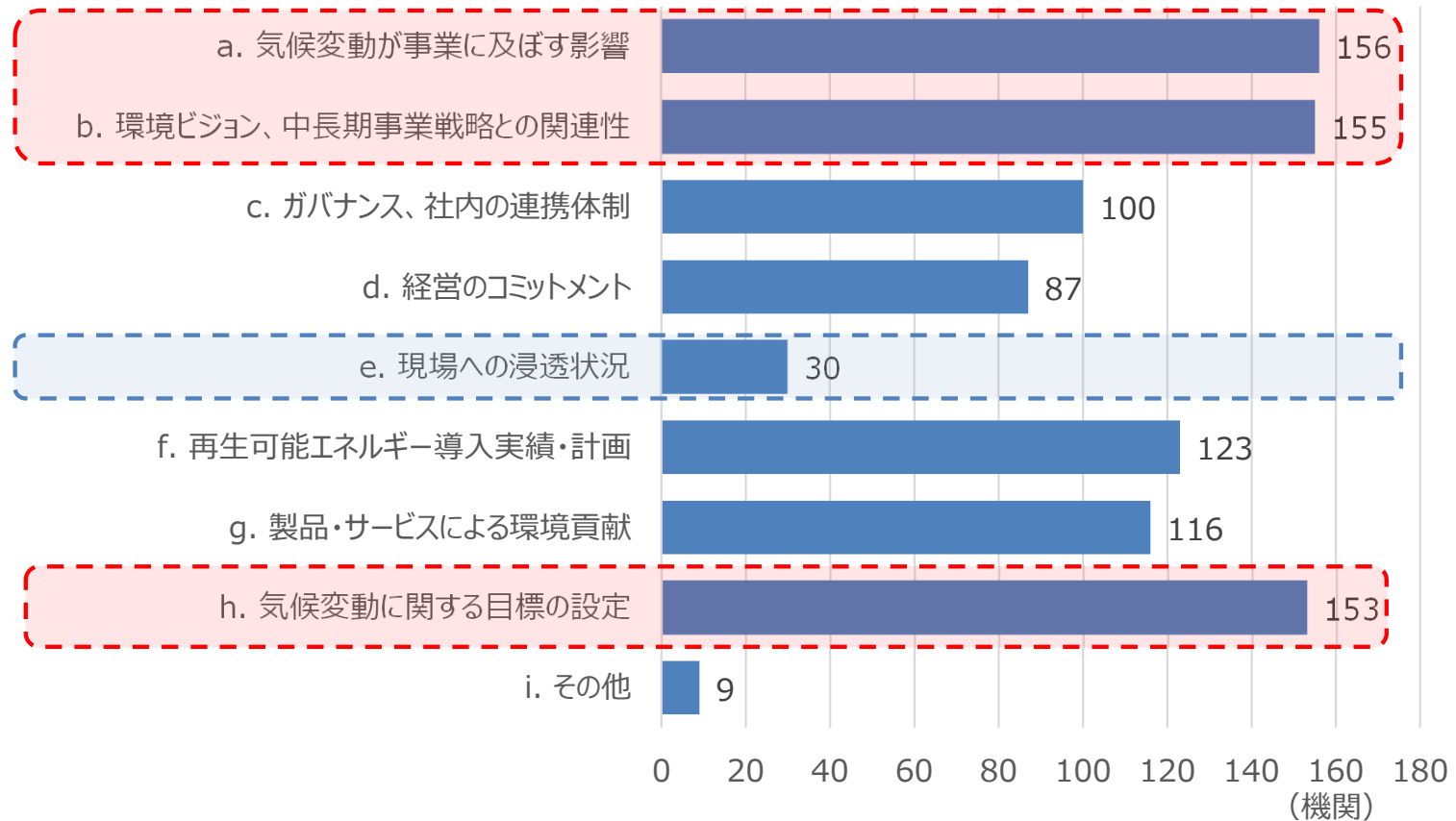


- 「年2～4回」（選択肢a）と「年5回以上」（選択肢c）の対話をしている企業がそれぞれ3割となった。引き続き活発にエンゲージメントが実施されている様子が見られる。
- 一方、「話題にならない」（選択肢d）や「対話の機会がない」（選択肢e）との回答も一定数存在し、**マテリアリティや企業規模によってエンゲージメントが異なる**ことが示唆される。

設問17 (非金融機関)

- 設問16.でa.、b.、c.と回答された方にお聞きします。金融機関等との対話（エンゲージメント）において、どのような質問を受けましたか。（複数選択可）

非金融機関（回答数：244機関）



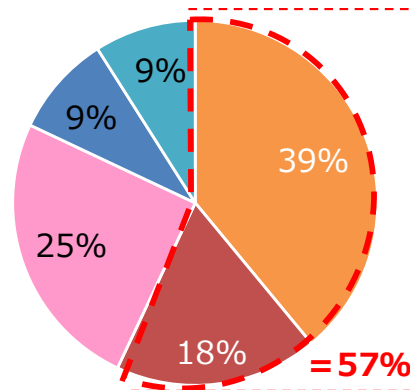
- 非金融機関全体として、**気候変動が事業に及ぼす影響、環境ビジョン、気候変動に関する目標の設定**（選択肢a、b、h）が、最も関心の高いテーマであることが示された。
- 現場への浸透状況（選択肢e）の回答が低く、これからのテーマであることが推察される。

設問20・21・22（金融機関）

- 【設問20】自社で保有する投融資ポートフォリオのGHG排出量（金融排出量）を分析し、目標値を設定していますか。（1つ選択）
- 【設問21】設問20.でaと回答された方（目標値を設定している方）はご回答ください。目標値の設定年についてご回答ください。（1つ選択）
- 【設問22】設問20.でaと回答した場合、貴社の目標をご回答ください。（自由記載）

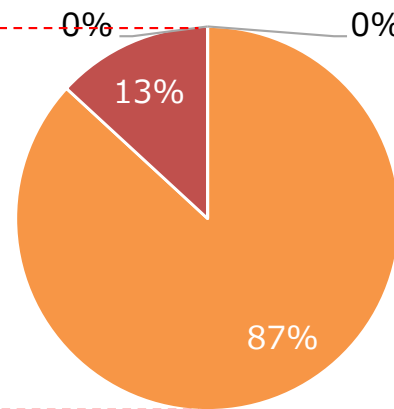
金融機関（回答数：100機関）

- a. 分析を実施の上、目標値を設定している
- b. 分析はしているが、目標値は設定していない
- c. 分析について、検討中である
- d. 検討する予定はない
- e. その他



金融機関（回答数：38機関）

- a. 2030年、2050年の2つの目標を設定している。
- b. 2050年の目標だけを設定しており、2030年の目標は検討中または検討予定
- c. 2050年の目標だけを設定しており、2030年の目標は検討予定なし
- d. 特定の年次における目標は設定していない

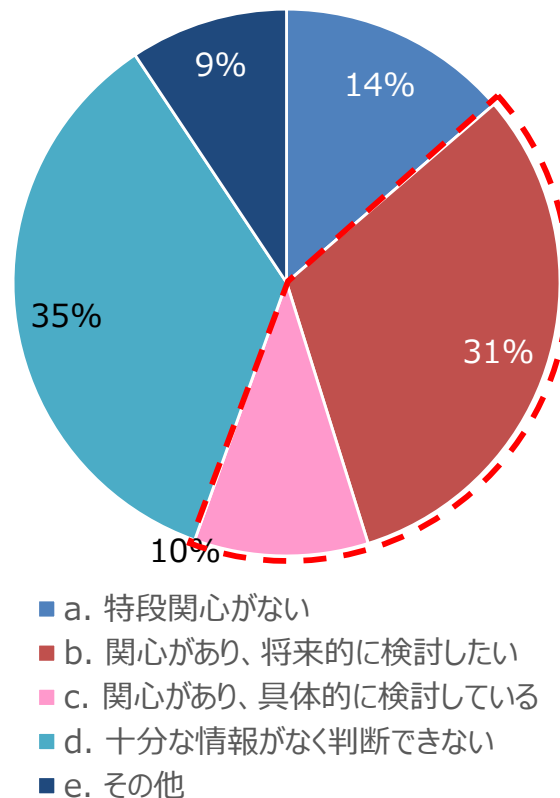


- 自社で保有する投融資ポートフォリオのGHG排出量（金融排出量）を分析を実施している金融機関は半分を超え、目標設定済みの金融機関も約4割に達した。
- 金融目標設定済みの金融機関のうち2030年、2050年の両方とも目標設定をしている機関は9割近くに達した。2050年の目標は共通してカーボンニュートラル達成である一方、2030年の目標は業種別に原単位で削減のコミットからポートフォリオ全体で46%減といった目標まで様々であった。
- 2030年の目標を検討中とする金融機関も存在しており、金融排出量に関して2030年の目標を設定し開示する金融機関は今後も増える可能性が高いことが示された。

設問18（非金融機関）

- 脱炭素へ向けた転換を推進する企業を支援するトランジションファイナンスを巡る動きが活発化しています。トランジションファイナンスに対する貴社のご認識についてお聞かせ下さい。（1つ選択）

非金融機関（回答数：321機関）



- トランジションファイナンスに関しては、関心がある企業（選択肢b, c）は全体の半分弱となった。
- 一方、十分な情報がないという回答（選択肢d）も多くを占めており、**ニーズの二極化の可能性**とともに引き続き**啓発の必要性**が示唆される。